

(2011年11月02日、16日実施)

『タイ洪水被害における感染症対策セミナー』にパネラー参加しました

2011年11月02日と16日、虎ノ門スクエアにおいて、この度のタイ洪水に関連する感染症対策セミナーが開催され、この二つのセミナーに連続参加させて戴く機会を得ました。

本セミナーは、渡航医学センター 西新橋クリニック及びサラヤ株式会社様(いずれも基金の会員です)の共催で、初回の緊急セミナーでは基金は後援させて戴きました。また、宮本が、パネルディスカッションの際のパネリストとして迎えられ、大越院長と、東日本大震災の際に現地の食品を取り扱う企業の厨房等の『初期化』にあたった家柳部長(サラヤ)とディスカスしました。セミナーは、大越先生のご講演「洪水発生時の感染症」、サラヤ家柳食品衛生部長からの「洪水被害の初期化～東日本大震災を踏まえて～」と進み、最後に、宮本も入って三人でのパネルディスカッションという構成でした(約50名参加)。



【大越先生プレゼンテーション】

大越先生からは、

- 1) 洪水の水に含まれているもの(脱走ワニや蛇も!)と洪水に伴う健康リスクにはどのようなものがあるか、
- 2) 災害時の際の感染症にはどのようなものがあるか、その原因は何か、一般的なタイの感染症情報と今回のBKK近郊での高リスク感染症にはどのようなものがあるか、
- 3) 感染症の対策を①リスク評価、②経口感染症対策、③化による感染症への対策、④外傷や動物咬傷による感染症への対策についての解説、
- 4) 現地工場等の復旧部隊投入の際に考慮すべき感染症対策(推奨ワクチンと出発までの時間に応じた接種法の説明)、
- 5) その他駐在員と家族への注意事項、
- 6) クリニックの対応内容、そして
- 7) タイの事業所で対応してほしい感染症対策

について予定時間を少しオーバーしてしまうぐらい熱のこもったプレゼンテーションがありました(大越先生プレゼン資料のPDFは基金のHPからも見ることができます)。



【家柳部長プレゼンテーション】

3月の東北大震災の際に、数十名の社員とともに現地入りをして、食品工場やスーパーのバックヤードにある食品調理室等の『初期化』に当たられた家柳部長からのプレゼンは、震災直後のテレビや新聞報道を彷彿とさせる映像と、「水が完全に引かないと初期化作業はできない」という力強いメッセージの発信を中心としたものでした。なお、『初期化』というのは、業界用語の様ですが、所謂『復旧(rehabilitation 又は restoration)』のことです。

建材のがれきから出た粉塵等も飛ぶことがあるので、水が必要になるが、「汚染された水をいくら使って洗ったとしてもその部屋は綺麗にはならない」という言葉がとても印象的でした。



【パネル討論】

予め参加者の皆さんからのご質問等を事務局で整理しなおし、それらの質問についてモデレータの鎌倉部長(サラヤ)から指名されて大越院長、家柳部長、宮本が回答或いは報告をするという形で進められました。鎌倉さんの適切なネタ振りのおかげで、討論時間45分はあっという間に過ぎてしまったように感じています。



宮本からは、会員企業の方からの質問に加えて、『各企業の対応状況』についての報告をしました。事前に、これまでのセミナー参加者のみなさんに『横ヨコ連携メール』と題して、

- 1) 『復旧部隊』を既に投入をされているのか否か、投入をされるタイミングと判断基準はどの様なものか、
- 2) 投入部隊の投宿先はどこか、
- 3) 清浄な水は確保できているか否か、
- 4) 飲み水の確保はできているのか否か

といった項目に回答を載っていたのでそれらを纏めて報告すると同時に、

ある企業で実際に出された出張の規制や避難に関する通達の内容について、社名を伏せた形で、報告させて戴きました。

【(セミナー参加者の)横ヨコ連携メール】

セミナー会場等で顔を合わせた方たちの中での『横ヨコ連携』メールでの協力依頼なのですが、約**100名**(セミナー参加者には同じ企業から参加されている方も多いため、社数はこれと同じではありません)の方にメール発信し、最終的には8社の方から回答・情報が寄せられました。ご協力を戴いた方には心より御礼申し上げます。



また、この種の横ヨコ連携はこれまでも数回発信致しましたが毎回、ほぼ同数の協力者が得られており、更に、「今後も是非こういう活動を続けて欲しい。他社はどうしているのか、それは我々も知りたいことなので」といった激励のメールも戴いている一報で、「情報公開の場は、協力してくれた企業間のみにした方がよいかも。ギブアンドテイクではなくテイクアンドテイクになってしまう、つまりROM(リードオンリーマン:情報を取るだけ取って自分からは発信しない人)にまで情報を開示することは、今後も「協力はしないが情報だけ欲しい」という人が増えてしまう恐れはないのか」といったご意見も寄せられ、私も考えさせられてしまいました。基金にこの種の情報プラットフォームを作りたいとは思っているのですが、『会員専用』としてしまうのか、一般公開できる部分として表題だけは掲出し、そこからさらに中に入るには会員でないとは入れないようにするのかという点で悩んでいたところに、会員内部であっても「協力者間だけの情報開示欄」をつくるのか、、、これはなかなか難題です。

【日野自動車佐々木室長のプレゼン(11月16日実施)】

このセミナーは、**11月02日**の緊急開催セミナーのバージョンアップ版ですが、今回は、大越先生の感染症対策に関するバージョンアップしたプレゼンのほかに、日野自動車の佐々木章雄室長のプレゼンテーションがありました。内容的には、

- 1) 現地入りのミッション(佐々木さんが現地入りするまでの内部での議論内容の簡単な紹介も含めて)、
- 2) 現地入りする前段階での「日野自動車の工場本体と、関連企業からの入電内容」の簡単な紹介、
- 3) 現地入りしてから実際に①見聞した事実、②参考になった情報と感想、
- 4) 帰国時点での現地状況のラップアップ、
- 5) 帰国して、後任者を出してから、後任の方から入ってくる続報と、帰国時点でのラップアップした内容との差異など、
- 6) この後どうするかを考え方

についてのご紹介というストーリーで現地の写真や彼が帰国した後にも直前まで現地から入手して戴いた情報を公開して戴きましたが、リアリティに富み且つ論旨も明快なプレゼンでしたので参加者の皆さんにも満足戴いたのではないかと思います。またパネル討論も開催され、お二方のほかに、新たに西新橋クリニックの事務長に就任された松本誠一さんが元いらっしゃった物流会社の立場から現地のロジスティクスについてのお話などもされました。

